

あまり考えたくないけど大事なこと

もしも病気になったら生活はどう変わる？

自分も周りも元気な人が多い若いうちは、病気をするとどうなるかはイメージしにくいもの。

病気や症状の進行度にもよりますが、軽症や早期の場合は日常生活を送りながら病気と付き合っていく場合がほとんどです。

早期発見・早期治療が大切ですが、さらに何に備えたらいいのか、「お金」の視点から見てみましょう。

VOICE

通院が続くと、精神的にも
お財布にも痛い…

確定診断されるまで、1回数万円かかる場合もある画像検査や血液検査、細胞診などを何回か受けたため、**検査だけでもかなりの出費**になった。(60代・乳がん)

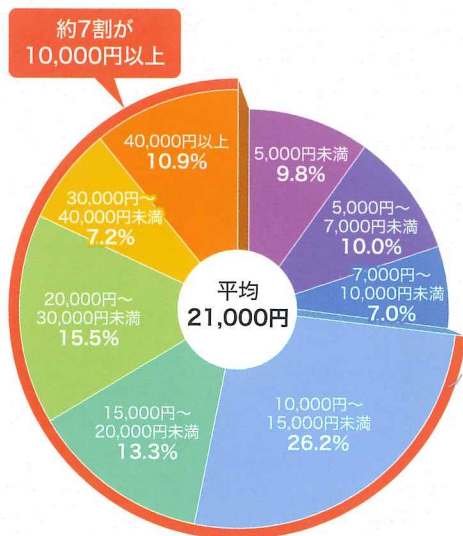
検査や経過観察などで頻繁に通院が必要になったのだけど、夏で暑いし体調も悪いので**タクシー**を使っていた。1回2千円くらい。出費がかさんだけど**仕方なかった**。(30代・子宮筋腫)



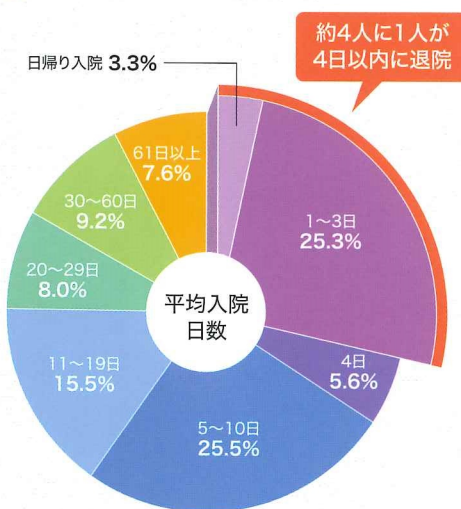
1回の負担は軽くても積み重なると大きな額に。
治療のほか、検査や手術後の経過観察など、定期的に通院する場合があります。特に頻繁な通院が必要な例では乳房温存療法（乳房部分切除術）後の放射線治療などがあり、1回あたり数千円から数万円の負担を25〜30回行うこととなります。
生活面では、交通費や食費など、生活を維持するためのお金がかさみがち。仕事を休んだり辞めたりするほどではなくても、仕事を減らしたり、通院の時間をやりくりしたりするケースが多いようです。

通院治療・検査

◎入院1日あたりの自己負担額



◎退院患者の在院日数の構成割合



入院自体は短期化傾向。「その他」の細かな出費に注意！
がんなど手術が必要な場合は入院になりますが、身体に負担の少ない医療技術が発達し、入院日数は短くなる傾向があります。病気や症状によっては日帰り手術も珍しくありません。そうはいっても医療費以外の費用もかかるため、入院1日あたりの自己負担額は平均で2万1千円かかっています。

入院・手術

【資料】生命保険文化センター
「平成25年度 生活保障に関する調査」

- 注) ①治療費・食事代・差額ベッド代などを含む。
高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額。
②集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人。
③端数処理のため割合の合計が100.0になりません。

【資料】厚生労働省「平成26年 患者調査」
注) 4日以内とは3泊4日以内の入院をいいます。

VOICE

「こんなものにもお金が〜!!」
と思うあれこれ

乳がんによる乳房の切除手術のため、**5泊6日の入院で約24万円**を支払った。後から高額療養費制度でお金が戻ってきたが、高額療養費制度対象外の費用があり、戻ってきた金額は思っていたより少なかった。(60代・乳がん)

ひとり暮らしだったので故郷から親に出てきてもらうことに。その**交通費や宿泊費**が想定外だった。(40代・卵巣のう腫)

寒い時期の入院だったので毛布を借りようとしたら、**別途料金**でしかも薄かった。結局、家族に電話して買ってきてもらった。(30代・乳がん)

入院中、**日用品などをこまごまと買う**必要があり、退院後も、お世話になった方への**お礼の品など思わぬ出費が続いた**。(30代・子宮内膜ポリープ)

「入院費用」って 医療費だけではありません！

病院に支払うお金は「医療費」のほかにも実にさまざま。食費など確かに必要なもののほか、日用品代や病衣（ねまき）のレンタル代など病院独自のものもあります。

主な自己負担の例

- 差額ベッド代
- 入院証明書発行費用
- 食事代の一部負担
- テレビ視聴料
- コインランドリー代
- 洗面用具などの日用品

